

日時：2018年9月8日（木）13：00－18：00
会場：Art Theater dB KOBE
（〒653-0041 神戸市長田区久保町6丁目1番アスタく にづか4番館4）
協力：NPO法人ダンスボックス
参加：28名＋JCDN 3名

緊急！ダンスミーティング<神戸>での発言をJCDN事務局で取りまとめました（一部意識省略等含）。

はじめに：

<佐東挨拶>

佐東：（東京mtgでは結論にはいたらず、今回の神戸でひとつ方向性を出したいと思っている。経緯などを説明。）今年度の文化庁人材育成場、JCDNだと踊りに行くぜ、dbだと国内ダンス留学だったり、いろんな人材育成のプロジェクトをやってきましたが一つも採択されなかった。採択されたのはバレエが3つ現代舞踊が1 舞踏が1。ちょっとずつ外れてきて今年0になったので何人かで、文化庁になんてこんなことになったのか話を聞きに行った。関西からも何人か行こうとしていたがその日大阪で地震があって、東京のハイウッドの高樹さんたち何人かで行った。それで文化庁の答えとしては、コンテンポラリーダンスを外そうと思ってそうしたのではなくて、結果として外れてしまったと。今までは採択枠を広く取っていたのをもう少し効果的に育成しようと考えて枠を絞って、今年度は5枠にして助成をしよう決めて審査したら結果として外れてしまった。その時言われたこととして、コンテンポラリーダンスの団体はいろんな人が話をしに来られるけれど、どこの話を聞いたらいいのかわからないところがある。文化庁としては業界全体を考えて支援するというのを考えているので、業界全体をまとめる統括団体のようなことは考えられないのだろうか。現代舞踊協会やバレエ協会も幾つかの企画をまとめて出しているのにコンテンポラリーダンスはそれぞれで出している。そういうところは何か考えられないのかと。今までコンテンポラリーダンスの団体は統括団体ということに対して何かアンチ、アンチというのもアレだけど群れるということを少し避けてきた。けどまとまった方がいいのか。そういう団体というのを作った方がいいのか。そういうことを話しているうちに、一方で、20年経っても経済的にJCDNも助成金が落ちただけで潰れてしまうほど弱い、そういう状況をひ弱だなと思った。20年間積み上げてきたつもりだったけどやはり何か積み上がっていないのではないかと。文化庁のことは文化庁のことであるが、もう少し何かみんなで集まって何かできないかと思ったのが始まりです。東京でもいろんな意見が出たが、文化庁のことで環境をどうしていくかという2つの視点があると思うが、東京はうまく論点をまとめられなかった反省があるので、最終的に今後こういう風にやっていきたいと思いますというひとつの結論を出してみたいなと。ここからひとつの新しいプロジェクトを始めていくような気持ちで進めたいと思います。よろしくお願いします。

<東京からの申し送り>

佐東：東京のmtgも同じようなスケジュールで始めた。（投影資料テキスト読み上げ）

文化庁申請対策>助成金に頼ること自体がやはりおかしいんじゃないかという意見も当然あって、それはそれで議論すべきなんだけど、実際に日本で何かやろうとした時にやはり難しい部分があると。コンテンポラリーダンス自体が終わるのでは>トヨタコレオグラフィーアワードが終わったり、踊りに行くぜが不採択になり終わったり、いろんなことがここ数年で起こっている。ある種の危機感ですね。中長期的な視点でコンテンポラリーダンスの社会的な意義を高めていくということに関していろいろ意見が出ました。統括団体的なものの必要性は多分あるんだろうなと、東京mtgの中では出てきました。あとは、立場を超えてつながる場、ミーティングの場が求められており、それがコンテンポラリーダンス全体の活性化につながるのではないかという意見もありました。

佐東：統括団体ということについて。JCDNが統括団体になるのか新しい団体を作るのか。JCDNとしては、当初は新しい統括団体的なもの、ネットワークという形でできないかなと思っていたんですが、20年前は統括団体を作るよりもダンスを实际やる人たちを増やすという意味で事業を主体にやってきたが、ある種シフトチェンジしてもいいのかなと。統括団体が事業をするというのはありえない形とい

うことなので、JCDNが完全に事業をしなくなるのならあり得る話なのか、など。実際に、そういう団体を作ったとしても、今のコンテンポラリーダンス界の中でどういう働きを果たすのか、間近なことと5年10年先のことを考えることも必要だろうと。また、統括団体とはなんぞや、というリサーチも必要だろうと。(以下、資料参照のこと)

佐東：僕が今まで意識してこなかっただけで、よく見てみると、日本バレエ協会だとか、日本の文化の助成金は9割近くこういう団体が採択されている。逆に、JCDNやdbが取れてきた方が珍しかったということも言えるのかもしれない。演劇の方でも日本演劇協会とか日本劇作家協会とか。たしかに文化庁の助成金というのはあるまとまった団体が採択されているのでコンテンポラリーダンス界に今までそういうのがなかったということは、脆弱とかひ弱になるひとつの要因ではあるのだと、今振り返るとそうだなと思う。今まではそういう形はありえないと思っていたので。そういうことが東京での話でした。

佐東：今回、東京と神戸合わせて90名くらいの参加者がいる。それで、今回、本日のmtgの目的として、コンテンポラリーダンスが社会において、経済的に継続して活動していける環境を創出していくことを目的にして、そのための方法を話し合う。経済的に継続して活動できる環境を創出するための方法を見出すことを目的に。そのための方法のひとつとして、統括団体を組織することが有効かどうかも議論したい、有効である場合はその設立の方法を議論したいと思います。

佐東：それから、本日のミーティングの目指す着地点として、コンテンポラリーダンスの現状を変えていくための方法の方向性を定め、そのための具体的なステップを構築すること、いつまでにどのようなメンバーでどのような方法で進めていくか、具体的に何かどうということができるのか、例えばすぐにできることと、たとえば、10年後にこういうことをやっていこうと決めたとして、具体的に次は誰にどこでmtgをやるのか、それならwebサイトをつくらうよ、とかそういうところまで持っていけたらいいなと思う。グループディスカッションを経て、最終的にはこういう方向で検討していきましょう！ということまで持っていきたいと思っています。それが今回のミーティングの議題と思っています。最後までお付き合いのほど宜しくお願い致します。

質問者：グループごとにテーマに分かれて、というテーマとは？

佐東：(資料参照：グループ分け説明。)では第1部の自己紹介に入りましょうか。

第一部：

それぞれの現場からの現状・課題・課題に対するアイデアなどの紹介

参加者の皆さんから、自己紹介と本日のミーティング参加に際して考えていること等、各自2分程度で発言いただきました。

- ▶制作：コンテンポラリーダンスに関わっているわけではなく、大阪の子ども向けの演劇施設で働いていて、文化庁の新進芸術家育成の助成を受けていたので関心があり。舞台芸術の中で限られた助成金を取り合っているだけではないのかという思いがあり、分野別にまとまっていくということ個別にやっていくことの両面の動きが必要だと思っていました。2020年を考える時に政治の力も必要だと思っていて、政治関係者に現場を知っている人がほとんどいないのでそのあたりに切り込んでいければと思っている。今日はそういう問題意識から参加。
- ▶ダンス施設スタッフ：主にアウトリーチなどの教育関係WS事業や国内ダンス留学の育成事業を担当。実際に若いアーティストと接していく中でいろいろ感じている。去年も外国人を交えて事業を行ったが、実際国内からの応募がすごく少なくてこのままだとやっていけないと思って海外から参加を募ったので、この事業の必要性、育成事業の今後について考えたいと思って参加。
- ▶ダンス施設主催：少なくとも育成事業の助成が不採択になったということに関して、コンテンポラリーダンスは、ダンスというものを、バレエや現代舞踊とはちがう新しいダンスの可能性を広げてきたと思っている。作品性というだけではなく、地域性、閉鎖的な活動ではなくて。20年前考えられなかったことは、WSで食べていける人が出てきたということだと思います。今回不採択になったということで、明治時代から日本の文化政策は変わらないなと思った。欧米を向いているなということ。海外で評価さ

れた人をどういふ海外のコンペで賞を取るといふのが評価になっているのかなど。そうじゃない評価をどうしていくのか、これからの課題と考える。

- ▶制作：ダンスに加えて演劇や現代美術のプロジェクトも活動範囲とする大分県のアートNPOに勤めていた。コンテンポラリーダンス限定だと経験や知識が浅いところがあるんですが、今後コンテンポラリーダンス界でやっていくためにどういふことを考えたらいいのか関心があって参加してます。
- ▶ダンサー：神戸アートビレッジセンターでコンテンポラリーダンスの作品の公演の企画をしています。今回はアーティストのつながりに強い興味があったので参加。
- ▶芸術劇場で働いている。自分自身で課題を考えるところまではいってないが、dbや国内ダンス留学が自分にとっては大切なもので、そういうのも含めて今後どうなっていくのかといふのをこの議論で見ることができるんじゃないかと思って参加した。
- ▶ダンスセラピスト、ダンスを使った心理療法。大阪のダンスが盛んな高校出身の卒業生に会うことがあって、ダンスを踊ってみてくださいというシーンで、踊れませんと。なぜかと聞くと、あの大会の曲のあのテンポのあの振り付けじゃないと踊れないんですと。なんて恐ろしい。もう少しコンテンポラリーダンスの方々、本来のダンスの目的のようなところをみなさんと話できたら。
- ▶ダンサー振付家：dbに関わるようになってから文化庁や助成のこと、コンテ業界がどうなっているのかを知るようになった。dbに関わってなかったらそういうことを知ることもなかった。周りの振付家たちともそういうことを話をすることもあまりない。私のイメージだと自分の上層部の人たちがどうしようどうしようとやっていて、私たちの層まで降りてきていないと感じる。今回のmtgは立場の壁を超えて話ができるいい機会だと思って参加しました。
- ▶カンパニー主催、一般社団法人主催、ダンス事業主催。僕ら自身は文化庁人材育成事業の助成金を受けて平成27年？くらいまでやっていて、それが不採択になって困った状況になって。今は公共のアートセンターが主催という形でなんとか生き延びています。
- ▶同じようにワークショップのフェスティバルをしています。カンパニーで助成金をもらったりしながらどうにかここまで生き延びてこれた。あるいは自分たちが作ってきた企画とかでなんとか生きてこれたなと思っています。アーティストっていふのは自分のやりたいことがあったら助成金のことなり、なんとかしてお金を集めてみたり、あるいはお金の必要がない方法でやってきたり。今後もなんとか工夫をしながらやれればと考えています。
 - ▶問題定義のひとつとして、市町村にはオーケストラは必ず1つはある。20年前の自分が想像していたのはこれからコンテンポラリーダンスが広がって行って、いろんな都市に専属のカンパニーとかダンサーさんが増えていくのだと思っていたので。
 - ▶残念ながらそこまで行ってないなと思っています。
- ▶舞踏家振付家：舞踏のスタジオを受け継いで若手舞踏家の指導や海外の舞踏家を招いてWSをしたり舞踏カンパニーをやっている。20年くらい前にコンテンポラリーダンスという言葉が生まれた時に、ある人に舞踏はコンテンポラリーダンスに入るんですか？って聞いて、コンテというのは同時代のダンスといふことだとお返事を頂いて、よかったなと思って、舞踏もコンテンポラリーダンスなんだなと。舞踏も決して人口が多いわけではなくて、日本人のダンサーが育っていかないので、育っていく環境っていふのをしっかり作っていかないといけないと思います。京都で、2年前から舞踏の専門劇場が出来て、現在週に2回踊らせていただいています。
- ▶文化施設職員：アーツカウシルなので助成金を出す方なんですが、助成金や公的なことのお金を出すといふことは公的なミッションを背負ってやってもらうといふことになるので、様々なところでギャップがあるんだなといふことを感じながら仕事をしています。
- ▶大学生：卒業論文でコンテンポラリーダンスをテーマに選びました。4歳からバレエ等をやっていて、友達からコンテンポラリーダンスって何って言われて、そこから論文のテーマに選んだ。ヨーロッパだとメジャーだし地続きで文化が受け入れやすいと言える気がして、今のコンテンポラリーダンスの課題として地域参加型であれば知ってもらいやすいのではと思ったりする。
- ▶文化施設職員：2013年に開館して5年経っている施設の立ち上げ時から勤務。演劇の事業が多く、ダンスも頑張っているがまだまだという状況。ほかの市と共同でダンサー振付家に滞在制作してもらって、滞在中に市民と交流を持ってもらうといふ企画を行っている。市が全てお金を出している事業で、実は

来年から出さないと言っていて、財団でお金をどうにかしなくてはいけない状況、今回は、コンテンポラリーダンスの関係者にお会いできる機会も少ないので意見交換したくて。

- ▶ 批評家：自分が見た舞台が全てだと思っているので、制作面の話とかには今までノータッチできていて、今まであえて目に見ないように、それも批評のひとつの立場と思っていたが。今回の助成金の話は、JCDNが立ち上がった時期を同じくして批評を始めた自分としては大きな展開期に来たのかなと思って参加しました。大きな団体を作らないことこそがコンテンポラリーダンスらしさ、既存のものに対して懐疑的であるということ、群れないことなどがコンテンポラリーダンスらしさだと思っていたが、なかなか難しい時期に来ていますね。
- ▶ カンパニー主催：カンパニーの他にワークショップシリーズを10年、それから、大学でも教えています。いろいろ難しいですねと思っています。いろいろな立場でダンスに関わっているので今日いろんなお話を伺ってそれから頭を整理して何ができるか、やっていければと思っています。
- ▶ ダンサー：私は踊るんですが、今日はみなさんがどんなことを考えているのか知りたくて、私がどんなことを考えているのかと伝えたくて来た。去年年明け間もなく父が大きな病気を患って、その時に長くダンスをできないかもしれないと思った。父と仕事の話をしたことがなかったけど、その時に知ったのは、父はやりたいことはやればいけどそれによって苦しんだり食べていけないのは反対。自分が所属している業界がそういうことをどうしているのかと聞かれて答えられなかった。それは私自身に対してもどう考えているのかと問われたのだと思ったんですが、それに対して私は答えられなかった。
- ▶ 海外在住：2000年dbにお世話になった。大駱駝艦、踊りに行くぜ、去年の松山。日本のコンテンポラリーダンスのレベルは高いなと思った。演劇とダンスとジャンルを超えて。オーストラリアでは助成金を取る人がすごく上手な人が多くて私も勉強しました。助成金のあり方というのを国際的な視点で考えたらどうかと、そういうご紹介ができたらいいな、団体設立についても規制をする方向ではなく、自由を得るために個人が活動できやすくなるための団体のあり方を考えられたらいいなと。オーストラリアと日本の情勢は似ている。多様性を持って本質を失わない、ダンスのパワーを取り戻すにはどうしたらいいかなと。
- ▶ カンパニーダンス振り付け：モガという団体、助成金はまったくとらずにやっていける方法で20年やってきた。やり続ける中で、助成金をもらっている団体とつながれることで、目が開くというか、いろんな刺激を受けてきたので今日は来なきゃなと。松山でやってきたことを使えることもあるのかなと。今日は来なきゃ！という強い気持ちだけでひとまず来ました。
- ▶ カンパニーダンス振り付け：来なきゃ！パート2。日本の情勢がどうなっているんだろうというのを見ないと思ってきました。
- ▶ 子供から老人まで含んだグループで自主公演を10年続いている。その活動を発展させるにはどうしたらいいのかと思っている。それから、私の本職は公務員で、ダンスは趣味の範囲を逸脱した趣味、という位置付け。何かしら社会に還元したいなとっていて、JCDNのコミュニティダンスファシリテーター養成スクールを受講。
- ▶ ダンス施設スタッフ、制作者団体関係者：去年片付けをしていた時に、db設立の時に企画書が出てきた。未だに同意ができるようなものだったなと。どういう状況で生まれてきたのかはわからないが、アーティストが出会う場があって生まれてきたと聞いて、そうだなと思った。大阪時代はダンスサーカスのプログラムもアーティストの順番待ちがあった。今の状況としてコンテンポラリーダンスがなくなってしまうのではないかと書かれていたが、今どういう次のアクションを起こすのかということを考えてみたいと思っています。助成をどうとっていくかということで、統括団体のこともあるともいますが、そのあたりはごちゃ混ぜにせずに整理したいと思う。
- ▶ 文化施設職員：大阪にあるホールでダンスプログラムを中心にディレクターをしていた。その頃に比べるとコンテンポラリーダンスに関する比重が自分の仕事の中で減ってきたが、コンテンポラリーダンスがほぼ100%仕事の対象だった時は情報がすごくたくさん入ってきていたが、少し引いてみると一気に入ってこなくなった。そのことがコンテンポラリーダンスの社会的意味というか、広く一般の人とコンテンポラリーダンスがどういう関係性を持てるのかという点でやはり何か考えなくてはいけないことがあるなと思ったり。コンテンポラリーダンスがこの20年やってきたことを振り返ることがこの1年増え

てきて、次に何ができるのか考えているところ。文化庁の助成については、データはなく自身の実感になるが、ある程度の時期まではフォーマットなどに現場の声が反映されていたなど。例えば文化庁の在外研修の申請などは統括団体を通してしか提出できなかったが、文化庁に直接申請できるようになった、とか。コンテンポラリーダンスの盛り上がりと日本の文化政策がリンクしていると思っていた時期があったが、この数年はどんどん窮屈になってきているなど感じている。なので、今回不採択になった一つの理由が、統括団体がないのがわかりにくいということが、文化庁がどういうふうに、考えが変わったのか、考えが変わろうとしていたのか止まってしまったのか、もう少し詳しく知りたいなど。どういう背景をもとにこうなっているのかももう少ししっかり知りたい。

- ▶文化施設ディレクター：今の話を引き継ぐと、佐東さんの話を聞いて思ったことも言うとして、統括団体のようなものがある、今どのようなことをやろうとしているかが業界全体の状況としてわかるということ、申請の内容の質というのは別にリンクしないものであって、本来的には質の良いもの、国の文化政策としてマッチするプロジェクト、内容において支援する。質において、というのが本来なので。答えになっていないと思った。統括団体が云々というのははっきり言って文化庁の怠慢だ。現状をリサーチして何が起きているのかを把握していくのが文化庁やアーツカウンシルなどの役割だろうと思うので、そういう機能をきちんととあなたたちが持つべきだという政策提言をすべきだろうと思っている。あとは個人的な気持ちですが、昔のそんななんとか協会みたいなことはいいやんか、と思う気持ちは持っている。実際果たして、さっき挙げられていたようななんとか協会というようなものが果たしてこの国の文化を世界に対して推進しているかということ、どうかなと。結局それをまた同じようなものを作ると、それを作った当初にいなかった新しい人たちが活動しだした時に、私たちはそういうところには入れないと言って反発を持って新しい団体を作ってどんどん増えていってっていう繰り返しにしかならない。少なくとも現代の社会のヒエラルキー的なやり方みたいなものが時代遅れであるということも含めて、社会自体が変わってきているのだから、社会に呼応するように芸術の価値というか、あり方、存在の仕方自体も設計しなおす必要があるのではないかと。そういうことをそれぞれJCDNとか、ネットワークと呼ばれる組織が共有して行って提案していけたらいいのではないかと考えています。
- ▶ダンス施設スタッフ：文化芸術ではない行政のセクションとの調整やその他の団体との調整をしています。下町芸術祭の担当。文化庁落ちたら次どこからお金取るかとか、次のフェーズをそろそろ考えたいと思っています。補助金で左右される運営の方法というのからの脱却というのを考えていきたいと思っています。また行政の人たちの言ったことについて、例えばさっきの団体を作るというのもそうですが、でも次の行政の担当の人も同じように言うかはわからないし。言われたことを答えるというのも、どうかなと感じながらもいま話をしています。今回審査員をみているとバランスが悪いということに関しては、佐東さんもおっしゃったように政策提言をしていくとか、情報公開請求するとか、向こうのシステムに乗じた形で是正していく方向を模索しつつ。手元のことで言えば質の高い事業を提案していくとかもしっかりやりたいと思ったりします。
- ▶NPOスタッフ：教育福祉地域プログラムを主に担当。2010年くらいは巡回公演事業の制作も担当していたが、ある時コミュニティダンスという手法を通してダンスの力を地域に生かすという活動を具体的に始めた時に担当になった。そのことがとても面白く、私自身はこの活動にすごく可能性を感じている。制作者としてこういう場に来て発言をするということをしていなかったんですが、私もこれまで団体から何も問題なく雇用をしてもらってきてたんですが、去年巡回公演事業が不採択になって、今年に至っては出した文化庁の申請がほぼ不採択になり、そのことで制作者としてどうなるのかという状況になっている。自分自身が地域と関わりながら仕事をしながらも、地域の事業で獲得できる予算ってというのがやっぱり文化庁と比べるとゼロが2つくらい違うことが多いので、なかなか難しい。そういった課題も抱えながらちょっとやっぱり団体がなくなってしまうんじゃないかという危機に急にさらされて、ここでもう少し文化政策とか、自分自身が現場をつくっていくというのがずっと楽しくてやってるんですけども、皆さんとお話をしながら未来をつくっていきたいと考えています。色々な意見が出たらいいなと思っていますので宜しくお願いします。
- ▶ダンス施設事務局長：ダンサーという立場と事務局長という立場で、年間何日助成金申請に時間を割いているだろうかという状況。今回、東京mtgにも参加してきた。様々な立場の方が参加しているが、立場が違くと情報も考えることも違うので、そのあたりを整理しながら、20年前にdbやJCDNが立ち上がる

前にあったお教室文化から離れては生きづらいという状況があった。そこから創ってきた。ないから作るっていうマインドがこの業界の根底にあると思うので。危機というか、危機はdbは常にあるので、だったらどうする、だったらこうするということに、次の手を具体的に考えていけるような会になればいいかなと思っております。

(以降、全体の司会進行をJCDN佐東とdb文さんで進めました)

文：ありがとうございます。このあとグループディスカッションに続きますがその準備までこのまま続けていきたいと思いますが。

佐東：ひとつ。業界としてどう考えていくのか。今まで、個としてどう考えていくのかというのを考えていたが、郷土芸能の人たちと接する機会も増えて、自分たち以降、若い人たちにどうつなげていけるのか。若い人たちにダンスの制作やったほうがいいよ、と正直言いにくい。その状況がまずいなと思った。今やっていることが重要なことであれば次の世代にどうやって渡していくのか、それとも自分たちはそれで終わりでもいいからと考えるのかというのはひとつ視点としてあるかと。それから、統括団体を作るとして今の時代にどういう形がいいのか。僕のイメージだとかちとしたものよりもアメーバみたいな、こことこことがくっついて、離れたり。組織体の形自体が今の時代に即した新しい形を探っていきたいなと思っています。

文：グループ分けに関して、みなさんの自己紹介の中からでもいいですが、このグループ以外に何か追加があれば。

佐東：あとは言い残したというようなことがあれば。全員で話をすると言話者が限られてくるのでグループ分けをしてなるべくいろんな人が発言するようにした方がいいかなと思っているのでその前にこういうことについて話し合いたいというテーマ設定が何かあれば。

文：一応、コンテンポラリーダンスの現状をよくしていく、変えていくということにつながるようなにか。ここには経済的なことを中心に書かれているんですがそれ以外でももちろんいいですし。

文化施設ディレクター：20年位前はダンスの情報を扱っている媒体が多かったような印象がある。ダンスに興味がなくともたまたま目にして興味を持つというようなことがあったような。ダンスをめぐる言葉というのが今はあまり目立っていないのかなと、観客を増やしていくということもそうだし、ダンスの社会的な価値をどう残していくのか。芸術的な価値と社会的な価値に関するダンスの言葉をどういう風に残していけるのかということも考えていきたい。

ダンスセラピスト：私は教育関係者なので、教育現場のダンスについて。そもそもダンスを授業に取り入れた先生方はみなさん、ダンスがこんなに楽しいと思わなかったと仰るんですね。東京藝大には舞台芸術などのコースがない。そういったところで、そもそもコンテンポラリーダンスというのは全てのジャンルのダンスを包括できるように思っていて。いま目の前のコンテンポラリーダンスの状況というのもありますが、もう少し長期的なダンスのあり方というようなことをもう少し認識してみたいなと思いました。

文化施設ディレクター：もしご賛同いただけるのであれば、社会的な価値にまつわる言説について、言説というのはややこしいかもしれませんが、それをどういう風に人に伝えていくのかということが大事でそこに課題があるからこそその状況でもあると思うので、どうやったらそういう言葉や尺度というのが明らかになっていけるのかということを考えてみたいと思います。

カンパニー主催：ちょっと補足的な話で。佐東さんがさっき今の若い人たちに制作者になることを正直おすすめできないとおっしゃっていたのを聞いて、私は今大学生を教えていて、就活の時期にすごく才能がある人に、じゃあ飛び込んでおいでって言いにくい。ワークショップで得たもののその先、職業としてどのように成立させられるのかというのは関心がある。経済的に成立させられるようなカンパニーがかなり少ない。職業としてなかなか成り立っていないということで、ダンサーのことを考えると、海外に行く人たちも増えているし、カンパニーというのが少ないということと循環していかないというのが課題点かなと思ったりします。

佐東：ありがとうございます。

第二部：

アーティスト、制作、スペース・ホール、評論、政策提言などいくつかのグループに分かれて、これからどうしていけば良いか、どこを目指すかなどについてディスカッション

自己紹介の後、4つのテーマごとにグループ分けを行い、約1時間ほどディスカッションを行いました。その後、それぞれのグループでの主な意見を発表しました。

<グルーピングとテーマ>

グループAB：統括団体の可能性を探る+助成金以外の経済的自立方法検討

グループC：アーティスト的立場から考えられることを話す

グループD：ダンスの芸術的・社会的価値にまつわる言説について話す

グループE：教育的な観点からの舞台芸術について

グループAB：統括団体の可能性を探る+助成金以外の経済的自立方法検討

▶前提として

- ・文化庁の今回の審査について、選考委員の人選に偏りがある点や、審査内容において事業の質ではなく書式の正確さなどが重視されている点、それらの情報の不透明性に問題があると考え、情報開示要求やメディアの興味を引くように促すこと、それらに対してなんらかの政策提言ができるのではないかと。
- ・政策提言についてはONPAMと何か連携してできる可能性もあるのでは。

▶統括団体ということについて

- ・統括団体＝業界のとりまとめ団体
- ・既存の統括団体という形はすでに機能を失っていて、ポジティブな統括団体と言えないのでは。
- ・同じような団体ができたとしても世代間ギャップはあり、日頃の風通しが良くないと団体ができたとしてもアクティブな団体にはなれないような気がする。
- ・このような意識を持っている人が今のコンテ界にどれほどいるのかというのは疑問という意見も出た。

▶JCDNというのは本来そのようなことを目指していたのではないのか

- ・C＝コンテンポラリーダンス、を取って、日本のジャンルを超えたダンス全般についてのネットワーク組織になればいいのではないかと。
- ・広いジャンルを取り込んでいく必要がある、フラメンコ、日本舞踊、コンテンポラリーダンス、勅使河原三郎のカラス、新潟のノイズムなども。

▶統括団体ではなく連合という可能性を考えてみる

- ・連合＝ゆるやかな集合体
- ・既存組織の変容ではないほうが良いのでは。
- ・急いで組織化するのではなく、まずは話し合いの場を設けていくほうが良いか。
- ・仲良しクラブで良いのか？対象を広げていく必要があるのでは。
- ・一箇所でやっているとう孤立しているように見えるが、連合という名のもとにまとめていだけでもまとまって見える、それをパンフレットなどにして営業ツールにするなど考えられる。
- ・名前のオシャレ感、大事
- ・様々な事業組織が集う、という点において、共通項もあり、違う点もあるので、そこをどうゆるやかにつないでいけるのかがポイント。

▶助成金以外の自立方法の検討

- ・例) 沖縄の劇団、企業研修、企業の社史を演劇化する活動など
- ・コンテンポラリーダンスを売り込んでいく事業、活動、すでにあるかとは思いますが、まだ日本全国の中で点でしか発生しておらず、面的な広がりまで至っていない。
- ・ダンスの総合商社
- ・プロジェクト単位でJVを組むような形（※JV＝ジョイントベンチャー、合併事業等の意味）
- ・文化庁以外の財源探しもしてはいけないのでは。

▶いろんな事業体が集うということにおいてもそれぞれに、共通項もあれば違うところもあるので、それをどう緩やかにつなぐのかという、つなぎ方が重要になる。

グループD：ダンスの芸術的・社会的価値にまつわる言説について話す

- ・紙媒体が全滅してきている状況の中、ツイッターなどSNSでの情報発信がメインになりつつある。
- ・この媒体をみると今のダンスが全部わかる、という状況ではなくなっている。
- ・SNSがメインフィールドになりつつあることで批評性を欠いた批評が増えているのではないか。
- ・異なるフィールドでも耐えうるダンスの言説
- ・作品に対する批評、業界の状況に対する批評も必要ではないか。
- ・新しい書き手が出てこない。
- ・助成制度の評価基準、評価の仕方が確立していない。
- ・評価自体を批評家などから提示していく必要があるのでは。
- ・社会的価値に対する言説ということにおいて意識すべきことは、あらかじめ決まっている自明の価値があるのではなく、それを定めるための課題を発見していくということが必要。課題の発見の仕方というところに我々のダンスに対するセンスが問われる。
- ・ダンスが一般の人、社会的に遠いものになってきているのでは。
- ・ダンスの芸術的な価値、ダンスが外にあるのではなく、根本的な価値観をもう少し啓蒙させたりははっきりさせたりする必要がある。
- ・アーティスト側がもう少しインパクトを持てるような事業、活動をすることも大事
- ・個々から発進する言説ではなく、発信されては消えていくような言説ではなく、もう一つ上の段階のもの、いろんな人に届くような、助成元にも届くような形で発信できればいい。

グループC：アーティスト的立場から考えられることを話す

▶問題定義

- ・アーティスト同士が出会う場、作品を共有する場が少ない、ない。
(NYにはあったけど京都にはないという実感、アーティスト同士が課題を深め合う場が少ないという実感から)
- ・同じプログラムに複数のアーティストが参加する場合は、一時的に、打ち上げの場や小屋入り中に交流が発生することはあるが、恒常的に繋がる場というものはない。
- ・松山モデル：松山大学、愛媛大学でダンスが盛ん。大学でのつながりが、そのまま卒業後のコンテンポラリーダンス界での活動の中でつながっていく傾向がある。作品を作る側、観客側双方に。

▶アーティストが出会う場で何を話すのか

- ・クリエイションにおいて、アーティストが社会に対してどう向き合っているかという点が必ず議論にあがるはず。
- ・議論する場があれば、ダンスがなぜ社会に必要なのか、言語化する、それを発信していくことができる。
- ・作家が集まることは生産性は生まれないが、アーティスト自身がリソース、価値の塊であるということを知ることができるのでは。
- ・20代アーティストの世代は、他に仕事を持ちつつダンスをしていく、アーティスト兼任ということをやから受け入れている、ゼロ予算の状態でお金をかけずに自分たちでできる、ダンスについて話し合う場、お互いに励まし合うという意味でも場というのは必要。30代以降の外からのサポートがほぼ期待できない時期へ向けて準備をしていくためにも。
- ・JCDN「踊りに行くぜ！！」はアーティストが出会う場として機能していた。dbのダンスサーカスの功績も大きい。

グループE：教育的な観点からの舞台芸術について

▶コンテンポラリーダンス自体の価値を上げる教育とはどういうことだろう

- ・コンテンポラリーダンスはあらゆるダンスの基礎を教えることができる唯一のダンスではないか。
- ・あらゆる分野に共通して言える教育、
- ・文化庁、文科省、経産省、、、あらゆるところで教育事業を実施しているが、そこにコミュニティダンスをファシリテートできる人を派遣することで中から変えていけるのではないか。

- ・ファシリテートできる人材育成は学校の現場でも生かされる。コンテンポラリーダンスの価値を上げる教育、例) 哲学、体を使うだけで哲学を教える。
- ・あらゆる現場に行くときにコンテンポラリーダンスというコピーを使うのではなく、言い換えることで浸透していくのではないかな。
- 例) コンテンポラリーダンス事業→自己肯定感を向上させる事業
- ・あらゆる教育現場にコンテンポラリーダンスのファシリテーターの需要がある、ということが重要
- ▶瞬間芸術としての価値を教育していく必要がある。
- ▶アウトリーチとして、広告媒体として、アーカイブも必要
- ・現場でも言説ということが難しいと実感する、目の前で起こっていることをどのようにコンテや目的を説明する、伝えることができるかというのが難しい。

第三部：

各グループの発表と、その内容を受けて、今後どのようにしていくか、何か出来るか、など具体的な方策の話し合い

各グループごとの発表を受け、全員での議論の時間に移行しました。以下、主な論点と意見を抜粋して記載します。

S：では。最終的に、形としては、名称・目的・誰がどのように、いわゆる5W1H的な形に最終的には持っていきたいと思っております。いま拳がったものを、ざくっといってこの場での話を深めていけるような連合なのか団体なのかなんらかの形でつないでいけたらいいのかなと思います。いまずぐ組織を作るといってでなく、もしできればすればいいんですけども。こういうミーティングを続けていくというのも目的にしてもいいでしょうし。いろんな立場のいろんな意見があるので、逆に絞ろうとするとすぐ排除される部分が出てくるので。

I：統括団体が必要かどうかまで結論が至っていない。

S：統括団体的なものなのかムーブメントなのか思想なのか。そこをまとめるべきかどうか。

H：何のためにという話で、文化庁対策という点では、統括団体はまだ必要ではないと思う。JVで良いと思う。

S：今年度の申請については、やると手をあげるところ同士が連携すること以外考えにくい。いまここで話したいのは、今起きていること、課題だと思っていることを含めて、今後どういうムーブメントを作っていくのか、その方法にはどういうものがあるのか。PJ名でもいいし、団体名でもいいし、何か名前をつけたい。

A：会の名前なのか場の名前なのか。会にすると会にしかならない。せっかくいろいろ出た意見をなくさずに、それぞれ一歩ずつ進めていけるのか。今出た中でも、こうすればこうできるよね、というのがたくさんあった。アーティストの集まる場がない、ではどうしたら作れるのか。全部をまとめて話したらないがしろになる気がする。

S：Kさん、こういうときにどう進めたらいいのかな。

K：ちゃんとした会をつくらう、という感じの議論ではなかったですね。でも情報共有とか課題の共有とか、互いに課題を知り合う場があるとかがあるといいよねというのは共通していると思うので、こういうことを時々やるというのは続けたらいいと思うんですね。

私はコンテンポラリーダンスという用語を使っていることに、多少無理があるという意見の持ち主で、ダンスでいいじゃないの。初期は、昔のダンスじゃなくて我々のダンスを作っていくんだ！という機運をコンテンポラリーダンスと呼んだんだと思うんですけど、もうそれは（そういう時期が）過ぎたんだと思うんです。「私たちのダンス」くらいのかんじで。それで、ときどき、全国が一度に集まるのは難しいから、年に2回くらいdbやセゾンの森下スタジオで集まろうとか、その他うちを使っていいよというのがあれば、松山の練習スタジオでもいいから、みんなで集まって課題を議論し合おうよ、という、それくらいはやりましようよ、ということでもいいのでは。そういうのを1年くらいかけて議論していく間に、もう少し煮詰まってくるのでは。

もう少し歴史的に遡るとJCDNは本来、あれ（JCDN）に入っているといいことがあるという団体だったのに、全くいいことがないとは言わないけど。何か調べてくれたり、「踊りに行くぜ！」に参加できたり。今は当初ほどではない、我々に参加するチャンスがいろいろあるから。本来はここが中間支援組織として文化庁からお金とってきてみんなに分配してくれたらいいんだけど（笑）。いまはJCDNのN、ネットワークがあまり機能していないんです、残念ながら。それで佐東さんもこのままではまずいんじゃないかと思って今回提案してくれたんだけど。それで今のこの形を「私たちのダンスネットワーク」とでも呼んで。

で、世話人は、これはしょうがないですよ誰かがやらないと。固定しなくて持ち回りでもいいし。

それでそのうち奇抜な人がいてじゃあ私金を出す算段をしようかともなればいいけども。10年くらい前だったら私そういう役割を果たしても良かったんだけど。いまはもう自分の生活だけで精一杯なので申し訳ない。でもそういうお金を出してくれるところはあるはずで。例えば、私たちのやっていることは観光なんですとか、私たちのやっていることは町おこしなんですとか言い張れば、出してくれないこともないと思う。ダンスだけで行くとまだまだお金の出すところは狭まる。売りをもう少し広げれば。少なくとも教育現場はいまダンスを活用し始めているわけなので、もっともっと戦略的にダンスを売り込む。あるいは老人ホームでダンスを生かす活動が出てきたとか、実は潜在的に色々な場面でニーズははずで、それをうまく開拓して売り込んでいく、それはまったくのインディペンデント、個人ではできないから結託してやろうよ、と。もうちょっと売り込み戦略を考えられるといいのになという気がする。

S：ありがとうございます。他になにか。

X：今回のミーティングの記録がここに参加している人、していない人問わず見ればいいなと思う。話す場を継続していくことにつながる。

S：東京、神戸、両方の議事録は最終的にまとめます、形や配布方法は少し検討しますが。基本的には公表する形に持って行きたいと思っています。

X：連合体の話に戻るが。目的がもう少し明確化しないと少し違和感がある。ゆるやかなネットワークミーティングみたいなものが年に2回くらい行われて、その中で統括団体設立について議論する分化会があるとか、教育のこの話をするとかの方が良いと思う。こういうところに来ないようにコンテンポラリーダンスをやっている人もすごくたくさんいる。お教室の中でコンテンポラリーダンスをやっている人もいる。もうちょっと俯瞰的な視点で。そういう人たちを入れずに作っていくのがどうか。どこまでを網羅するのか。どこまで人の出入りをゆるくできるのか、敷居を低くすることをかなり慎重に丁寧にやらないと。人を遠ざけてしまうことにならないように。

H：自分が教育や福祉の現場でダンスをやっているにも関わらず、実はdbの場所に初めて来ました。遠いとかいうのは言い訳で、正直ダンスの現場に魅力を感じなかったというのが正直な所だと思う。今日来た理由は朝日新聞の記事を見てやば！と思って来ないといけないと、緊急性を感じて。あんまりゆっくりと考えることじゃないのかもと思っていて。ダンスは、教育の分野に入ったとたんあらゆる団体が立ち上がった。早急に連合なら連合、ダンスというものを包括的に考えるグループを、先頭を切って考える組織を、それはすぐに作らないといけないのではと思います。

A：Kさんが言ったことはもっともだ！と思ったのでそれを伝えたいです（笑）。松山でも違和感を感じていて。始めはコンテンポラリーダンスだ！ってやって20年経って、今は松山はダンスなんだってやっていて（コンテンポラリーダンスではなく）、そうだそうだ！と思っている。

S：JCDNが（コンテンポラリーダンスの）Cを取るということに関して？

A：Kさんが言っていることはこの場にいる人に対してもだけど、JCDNに対してということなんだろうと。だからそれをJCDNの方々がどこまで響いてくださるのかというのをちょっと見守るような気持ちでさっきから居て。すごく影響をしていくのではないかなと思います。

Y：オーストラリアではコンテンポラリーダンスはそんなにメジャーじゃないんだけど、ダンス**という2年に1回のコンテンポラリーダンスを中心としたフェスティバルがある。3つか4つくらいの劇場がダンスを2週間やる。普段は見ない人もその2週間は見る。だからどうやって社会性を持たせるか、ダンスというものの在り方をもう一度意識して考えるという機会を創出するのは必要。もう一度コンテンポラリー性、現代性を持たせるということに関しては私も緊急性を感じます。

X：JCDNの会員数は今どれくらい？

S：100組くらいです。当初は250組くらいでしたが、20年の間に少しずつ減ってはきています。

X：今日来て思ったのが、アーティストの参加が少ないなと思って。緊急だと言われたから、あ、緊急だなと思って来てみたけど、そのへん、ダンサーたち、アーティストたちはどこに行ってしまったんだろう、と。20年前のキックオフの時はばーって人が集まってどうなっていくかわからないけどとにかく人は集まって。当事者意識というか。どこまで広がっているのかなと。ダンス留学とか何年もやってらっしゃるけど、そういう人たちがもっと嗅つけたりしないのかなと。もう少し丁寧に、ここに参加することは重要ねって思って貰えるような、ここに関わりたいなと思ってもらうことも、必要なのかなと思いました。

S：例えばひとつこういうミーティングをやろうと思っても準備というのも必要で。どれくらいゆったりでいいんだろうかという感覚、確かにみんなの歩みを揃えるためには年に数回がいいかもしれないが。では次誰がどういう風に声をかけるのか。次もJCDNが声をかけるのか。今回緊急ミーティングを開いたのは、次にかアクションをしないと終わるなと、悠長にやってられないなという思いがあるのですが。次のミーティングをしましょうってなって、その音頭を誰か取ってくれたらそれはそれでいいんだけど。このままいくと確実に衰え、しぼんでいくんじゃないかという危機感がやっぱりある。同時に、JCDNとしても（組織が）持つか持たないかぎりぎりのところにきていて。20年前にやるぞーってなってやってきたけども、未だに安定的なところまで持っていけないことへの後悔ではないんだけど、ジレンマ、どうなんだろうというものはある。そこら辺をどうしたらいいんだろうなと。。。次は具体的にこの場において方向性を決めたいと思っている。。。

X：緊急性というのはわかりますが、緊急的にやらなければいけないことというのは、目的があやふやなままの連合を作ることではないと思う。助成金のために団体を作りたい、団体の目的は助成金のためだけなのか、となるとそれだけではない、ということで今こうなっている。では、ある程度公正な審査をしてもらって取るべきところが助成金を取れるようにしていくためには、さっき言ったように政策提言をすとか、いろんな方法があると思うんです。そこを目指すのであればもう少しそれについてのみ議論した方がいいと思うんです。

A：さっきの急ぐのか急がないのかもあるけど、個人的には、JCDNの、主語がJCDNのなんちゃら、JCDNの何かを考えるってことになるらみんな、ん？ってなると思うので。反対に、この場にひとつ名前をつけて、その第1代世話人に佐東さんやJCDNの方々になってもらうというのはあるのでは。ひとつそういう構造を作る。その中で、言説チームの話とかは個人的には急ぐ話だと思っているので、そこをもうちょっと具体的に作って行って、それぞれの部分にしていくのかというか。もうちょっと具体的に形にできたらいいんじゃないかと言説チームについては思うし。アーティストチームが言っていたことももう少し具体的にしていけば動けると思うんですよね。ただ、それぞれをここで決めていくというのは無理なので、ひとまずこの場の会議体のようなものに名前をつける、それでその分化会みたいな形でまとめながら話を濃くしていったり具体的な提案をしていったりというのを試験的にやっていくという仕組みを作る、というのはどうでしょうか。

I：とりあえずいまいる人たちでネットワーク作りたか聞いてみて、みんなつくりたいなら作ったらいいんじゃないでしょうか。なんとなく、今回分けた各テーマごとでPJチームを作りたいなと思うならやったらいいんだと思うんですけど、どういう機能をこのネットワークが持つのか、どういう目的を持つのかクリアになっていない状況の中でネットワークを作るとい意味があまりよくわからないというか。緊急、というのはどこに対しての緊急なのか。文化庁対策に対してだと思うけどその対応はもう見えてきている。だからネットワークというのをいま作るうとなっても今ひとつ意味が見出せないなとは感じる。あと、もうひとつ。似たような感じでONPAMというネットワークをされているお三方がいらっしゃるその良さであるとか難しいところとかを教えていただければと思うんですけどどうでしょうか。

H：ネットワークで難しいのは、アドボカシー、いったい誰がどういう風に決めて提言していくのかという点が一番難しく、ONPAMでも壁にぶち当たっている。それはいったん置いて。勉強会を通して、言説について考えていくことは、芸術の評価というのをいったいどのように確立していくのかというのは興味深くやっていきたいと思う所はあるので、そういう勉強会はできたらいいなと。で、そういうことはONPAMも遠からず考えているので、一緒にできることはあるのかなと。

- O：ONPAMをやって6年目ですが、どういう目的のネットワークなのかというのは常に議論にあがるもので、どういう組織体系でどういうことをやっているのかというのは常に試行錯誤で、それでうまくいっているかわからないままやっているの、見本にはならない。ただ、定期的にそういうことを話し合う場がある、全国にそういうことを悩んでいる仲間がいるということがわかる。私は劇場に勤めていますが、そういう劇場に収まらない全体で何ができるかみたいなことを常にそれぞれが考えて発言しているというのはいいところだなと思います。
- H：ONPAMは舞台芸術の制作者の集まり、ネットワークとしている。必ずしも制作者という職能でなくてもいいと定義して集まっているが、芸術と外をつなぐと言いながら、外の別のセクターの人たちと話す言葉遣い、言葉を持っている人たちが意外といない。ですからこういう場もそうですが、必ず問われるのが、自分たちで話す時間も必要だけでも、別のところから誰かを呼んでくるというのを、言葉を磨いていくことも必要だと思う。
- I：まああの、勉強会、というくらいでどうですか？いまのかんじだと。で、定期的にテーマを絞ってやっていく。その場すら今はないので、どういう基準でプロジェクトをやっていくのかとか、評価基準というのはかなり切迫している課題だと思うので。逆にアーティストの方からこういうテーマがいいんじゃないかと提案してもらおうとか。今の現状だとそれが一番バランスがいいんじゃないかなと。
- K：緊急ミーティングね、全然緊急じゃないと。少なくとも5年前から緊急だったはずなんです、危機的状況だったはずなんです。でも一方でJCDNがあったことでコンテンポラリーダンスの価値はものすごく上がった、社会的意味が認知されるようになったという功績はある。なのに相変わらずコンテンポラリーなんて言っているから、世間一般の人はなんであの人たちはあえてわかりづらくして、なんて思ってるわけ。だけど、実は、誰も、現在のコンテンポラリーダンスの、世界の状況とまでは言わないけど日本の全体を把握できている人は一人もいない。批評家や専門家はいるんだけど、だれも把握していない。山海塾、勅使河原さんとか、平山素子さんとか。そういう人たちはここには全然見向きもしない。山海塾は山海塾でしょう、コンテンポラリーじゃないでしょうと線引きをしているのがまず問題なんだと思う。そういうことじゃなくて、すべてのダンスはダンスなんだから、一度そのあたりを丁寧に誰かが調査して、いま我々が置かれている状況がどうなのかというのをみんなで共有していかないと、本当の力にはならない。とはいえ、一方で、食っていかなくてはいけないわけで。多くのアーティストはダンスでなんか食えてない、教室をやってどうにか食っている、ダンサーとしては食ってないけど、パフォーマーとしてだけでは食っていけないけど、ダンスをやりながらでも食っていける方法を見つけられたのはそれはダンサーをやって（続けて）いたから。そういうことがあって、方法はいくらでも増えてきているんだけど。とはいえ、緊急に今後制度を変えてもらわないと困るし、もっともっとこちらに注目してもらわないと困る。そのファンレイジング、つまりカネ集めとブランディングの戦略は、これは私はあんまり好きじゃないんだけど、悠長に何年もかけてみんなの意見を聞きながらやっていくのが私の信条なんですけど、でもそれを超えて、独裁者が勝手にやるしかない。腹くくって、責任をとって。ここのブランディング戦略を考えるっていうのを。ひとりがぎつければ何人かで。独裁者グループ（笑）。で、その人たちが課題を考えて、やってもらうしかない。それがいままでこの業界で何年もやってきた人たちの責任なんだから。一方で、ネットワーク、こういうことで困ってるんだけどって言ったら、じゃあこの人に相談してみたらとかそういうネットワークは、それは民主的に時間をかけてゆっくりやっていったらいい。じっくり話し合ってみんなで情報交換する場は必要なんだけど、もう一方でそれとは別に、JCDNが腹くくって、自分のところは潰れる覚悟でも、この業界のブランディング戦略を考えるというのをやると、そういう責任があるのでは。国家なんてあてにならないんだから文化庁に頼りすぎると痛い目にあうと何度か言って来たけど、それでも突き進んだんだから、だからこの際、3年後にはJCDNはないかもしれないけどそのくらいの気持ちで、この業界にどっかから金を引っ張ってくる算段を（JCDN）がする、それくらいの責任はあると思う。ひとりでやれとは言わないから、dbとかONPAMとかと相談して。ONPAMはやってることはよくわからないけど人材はすごいんだから。本当はONPAMとかもっと活躍しろ、というのを言うのが仕事ですよ。若いのに議論ばかりやってていいのかと。とまあそういうことでいいんじゃないですか、これはもうそのまま、戦略会議。どこにどういう風に乗っ込んでいくか。文化庁のみならずいろんなところへ。企業、ダンスやりたい企業、いままで幾つかあったところが絶滅し

た今、新たにどういふところを開拓しようかというふなことを考へて働かかていくといふことをやらないといけなから。そういふ2つに分けて物事を分けて進めてはいかかですか。

S: そうですね…ただまゝJCDNもそんなにスタッフがかくさんいるわけではないので、すべてを担うといふのは少し難しいので、こういふことを、勉強会にしても一緒にやっていこうと、一緒にやっただけける、一緒に連携してできるといふところがあればぜひできたらなと思ひます。いづれにしても、緊急といふのが、確かにここ5年くらいか状況があつて、いまいるんなことがあつて。ただ、ひとつだけ確実にみなさんに言えることは、こういふ場、集まれる場があるといふのはすごく大切なことだと思ひるので。そういふ場をJCDNだけが作るのか、どういふ形で作るのかはわかりませんが、作っていけたらいいなと思ひます。あとは先ほどKさんがおっしゃつたように、少し強引にといふか、ある種無理やり動かさないと動かない部分といふのはあると思ひるので、その辺をどこまで切り込みをいれるのかわかりませんが、少し文化庁のこと含め、仕掛けを、全体で作ろうとすると大変かもしれませんが、会議の中に戦略会議といふのを作れたらいいのかもしれないと思ひます。考へてみたいなと思ひます。ただ、本当に具体的にそこまで経済的にも体力的にも、どこまでいけるのかといふのが正直なところなんです。なので、どこかやるよつといつてくれるところがあればぜひ一緒にお願いしたい。全てをJCDNだけがやりますとは正直、今のJCDNの体力的に言えないので。そこらへんもし一緒にやるといふところがあれば宜しくお願ひします。といふところで…

O: いろんなことを考へながらお聞きしてたんですけど。コンテンポラリーダンスとは誰がか言い始めたのか。コンテンポラリーダンスといふ言葉の神通力といふのが失われて来始めているよな気がする。では新しい言葉はどのように生まれてくるのか。コンテンポラリーに変わる言葉は考へられないのかなと思つたり。今日の会議のよなことに對して僕らがかどうしていくのかについては、最低限今日来てくれている人たちの中で必要と思ひのならばやっていこうとしていく中で、JCDNが中心となつてやっていくのは体力的に厳しいといふ現状があるのであれば、誰がかが会議の運営を代わりにやる。ネットワークに繋がればいいですし、繋がらなくてもとりあえず会議を年に1回、2回はやっていくといふことは決めることはできると思ひます。そこから何ができるのかといふのはそこに参加してくれた人が必要と思ひるのであればそれをやっていく。実際に動かしていく体制だけを今日はまず決めてしまつたらいいんじゃないかと思ひます。

S: いまの意見も踏まえて、こういふ場を継続して作っていく必要があると思ひ方？

> 大半挙手

S: ではこういふ場を継続してつくつていくといふことで、JCDNだけでは厳しいので、一緒に作っていくつてくださる方？会議の運営体に参加してくださる方…

X: 勉強会の運営…？

A: いまはひとまず勉強会は別枠に置いといて今日のよな会議体について。

S: 会議をやっていくにあつて、会議の運用を手伝ってくれる方？

> 2人挙手

X: 緩やかな集まる場といふのも必要かもしれませんが、どちらかといふと勉強会をやっていくなかでそろそろ会議しようつて決まる方がなんとなく…

I: 会議体といふと、どこに向かうのかつていふのがちょっと難しいんじゃないかと思ひます。ただ、勉強会だと同じテーマに關して一緒に学びましようつていふ。勉強会つていふ意味ではすごく共感できるんですけど、会議つていふとやっぱり何を目的に集まるのかつていふのがわからなくて、その部分が難しいなつて思ひます。

S: もう時間がないので…うーん…終わらしましようか。まとめといふものが必要かどうか。僕自身はまとめが必要だと思つてたんですが、それぞれの意見や考へ方があるので。それぞれの考へ方の中で…うーん

X: ここでいふと会議つていふのがよくわからないんですよ。

S: 勉強会的なことをやるつていふと、誰がかやる？手を挙げた人がやる？

A: 今日のいいところは、こういふ場があるから、勉強会があつた方がいいんじゃないか集まれる場があつた方がいいんじゃないつていふ意見が出てきたりつていふのがいいなと思ひますが。そういふことか顔をあわす場。

- K: よくわからないんだけど勉強会と会議を同じ場所でやればいいんじゃない? 一般的なことでいうと、例えば、冒頭で誰かが、最近のコンテンポラリーダンスの成果と課題みたいなのを喋ったらいい。それでそれを基にしてもしなくてもいいけど、本当はグループディスカッションみたいなものの方がはるかに必要性があるわけです。誰かの話はあった方がいいけど。勉強会つきのみんなで話す会というのをやればいい。今回のケースでいうと、いままでの現状を本格的に、我々がいま置かれている状況を誰かが深掘りしてちゃんと喋った後に、みんなですべてを基に考えるっていう。それともう一つは、戦略的なことは勝手に何人かでやってもらわないと。
- H: あらゆるダンスのサミット。いまはコンテンポラリーダンスのことだけを話しているけどいろんなジャンルの人が集まれる場にしていっての方が意味がある、自由なサミットの方がいいんじゃないかなと思いました。
- D: 名前はダンスサミットでいいんじゃないでしょうか?
- A: じゃあ戦略会議に関しては後の懇親会で佐東さんの周りに集まって数名で話し合うというのでどうでしょうか?
- C: ちょっと話を整理していいですか? ダンスサミットというのは、勉強会的なもの、今回のミーティングの第2部のようなグループディスカッションやいろんな形を含む、そのやり方はいまはまだ決めない、ひとまずダンスにまつわる諸々を話せる場、という意味の全体をまとめるネーミングということで良いでしょうか? それから、今回段取りに関わらせていただいた立場から、次の運営主体になる人が先ほどからまったく手が挙がらないという状況に非常に心配してまして、そのままでは多分次の会は止まってしまうと思うので、その段取りの中心になる人だけは今日この場で決めた方がいいと思うんですが。
- X: 今回のこの場がどういうことをしたのかというのを一度見直して、次分化会をするのかどういう形になるのかというのを、まだ今回はそこまで行ってないとしても、いったい何が話されたのかというのを書き出して、それを見直してから次を考えるというのはどうでしょう。その報告会みたいなことをやればいいなど。そこに関われることは私はできると思うんですが、その辺りがわからないので次どうしたらいいかなというのが考えられないなと私は思いました。
- A: こういう場があればいいなというのは共通していて、では実際にそれを具体的にどうするのかというので。東京と関西という場所のこともありますし。
- J: 勉強会もやりたいですが、やはり緊急的に考えないといけない状況もあると思います。特に戦略会議をやる必要があると思うんですが、じゃあ誰がやるのか、というところで自分自身も事業を抱えていて余裕がないんですが、しかし先ほどCさんの発言もあって考えましたが、余裕はなくてもやはりJCDNはやらねえといけないんだらうなと思いました。ただ、先ほど戦略会議?のところでは手を挙げてくださったdbやd&eの皆さんとは一緒にやっていきたいと思っています。
- H: 勉強会的なものであれば私も参加したいなと思うんですが、戦略的なことについてはどちらかという制作の方とか組織の方とかそういうことをされている方々が集まって中心となって進められることだと思うので、それはやっていただいて。ただ、勉強会的なことであればJCDNだけの負担にならないように、そこは他の人でも様々関われると思うので、どういう風にできるかというのを考えていきたいなと思いました。
- I: 僕も、戦略的なことについては、この段階で手を挙げている、JCDN、db、d&eが中心となって進めていくということで決めてしまっているんじゃないでしょうか。
- X: 勉強会はたくさんあってもいいんだと思うんですね。実際にあつまらなくてもネット上で議論する方法もありますし。それはいま決めなくてもいいと思います。
- A: 勉強会に関してはあとでホワイトボードでも置いて、こういうテーマでやりたいというのを書いていってやりたい人が名前を書いていくというのでもいいかも。あと、今日の参加された方の連絡先の共有とか今日の議事録の共有とかって?
- S: 今日の段階では個々の参加者ということになっているので、MLにまではできにくい。議事については、発言者の名前を出ささないや発言元への内容の確認などについては少しJCDN内部で検討させてもらえればと思う。が最終的には公開していく方向で考えたい。
- X: facebookにページを作ってしまうか?
- S: その管理を誰がするのかというのがありますね…

- X：ネット上で議論をすればいいんじゃないですか？このご時世。その管理を誰がやるかというのはもちろんありますけど。
- S：そういう含めて、次のステップへどういうように進めていくのか。いまの段階では、会議を持ちましょう、幹事役としてはdbとd&e、JCDNが音頭を取りましょう。勉強会もやりましょう。その方法についてはまだ決まってませんが、何らかの方法で勉強会はやりましょう。今日の段階では、今日集まって人たをひとつのまとまりを考えるのか、勉強会をやりながらまとまり方自体を考えましょうみたいなことくらいかなと思います。
- K：概ねそういうことかと思うけど、今回呼びかけたJCDNとしては報告の義務があるからそれは皆さんに報告します。その次に、facebookのページなんかをJCDNが作るんだしたら、こういうものを作ったんですがそれに対して参加の意思があるやなしやを、みんなにその時に問えばいい。で、JCDNがそういうものは作りたくないとなったらそれはそこでおしまいなので、私やる意思があるので皆さんに呼びかけてもらえますか？とJCDNに依頼する、という風にしないと。今回は個人の集まりで一旦今回はこれはこれで完結させたいというのがJCDNの意見なんだから、それはそれでいい。今日少なくとも決まったことは、勉強会付き情報交換の場を、それは誰かが呼びかけてくださいね、我々（JCDN）が呼びかけるかもしれないけど呼びかけないかもしれないので、それはやりたい人が声をあげてくださいね、という投げかけくらいまでしか、JCDNはできないということです。とはいえ、戦略会議は継続してごく少数だけでも継続してやっていきます、ということですね。あとはみなさん意思があれば表明してくださいね、世話人も何も決まりませんでしたけどそれをこの場で議論していたらまた2時間くらいかっちゃうから。やりたい人が手を挙げてやってもらうようなことにしておけば、今日はこれでいいんじゃないでしょうか、どうですか？
- S：いまのKさんにまとめていただいた形で今日のところはいいでしょうか？
- >一同拍手で賛同
- S：では次回どなたかが声を上げてくださることを期待して。最後に一言、多分状況的にそんなに切迫している度合いが温度差があるので、そういう意味ではこれからその辺を拾い上げていきたいと思うんですが、そこをちょっと、動くことを期待したいと思います。これで終わります。ありがとうございました。

<ダンスサミット：場の名称、考え方の名称>

▶緊急的なもの：戦略会議

ブレンチーム：JCDN、db、d&e

▶勉強会つき情報交換の場

- ・主目的を定めない、とりあえずダンスに関わる諸々を話したい人が集まる場
- ・ここから自発的に勉強会や提言などが生まれてくることを期待
- ・やる気のある人が呼びかけをお願いします（戦略会議ブレンチームに相談するのよし）

以上